

コロナ社会対応ビジネスモデル創造事業補助金実績報告（公開用）

令和3年2月28日

項目	内容
事業者名	会社名：株式会社伊と幸 代表者職名・氏名：代表取締役社長 北川幸
補助事業テーマ	丹後縮緬の白生地メーカーとして、絹製品に包まれるシルクステイのホテル企画を提案し、伝統産業と観光資源のタイアップで post コロナの京都価値を高める事業
事業実施期間	令和2年10月12日 ～ 令和3年2月28日
事業の目的	伝統の絹織物の利点を生かし、一流ホテル宿泊者向け特別企画「シルクステイ」に結び付け、伝統産業と京都の観光産業がタッグを組んで、京都の魅力と価値を高める。
事業の実績(成果)	<p>・実施した取り組み</p> <p>絹の優位性や機能性を活かし、ウォッシュャブル加工を施したホテル客室用リネンアイテムやルームウェア、さらには京都の染色技術を加味したホテルスーベニア小物類の制作に取り組んだ。</p> <div data-bbox="467 1070 874 1339" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="933 1070 1340 1339" data-label="Image"> </div> <p>・得られた成果</p> <p>新たな絹製品を開発することに成功し、既存事業以外での絹織物の新たな活路を創出することができた。</p> <p>染色技術や伝統工芸に加え、素材となる絹そのものに、触れて包まれ試用することが、京都の魅力と価値を高めることに繋がると感じた。</p> <p>・実施における課題と対応策</p> <p>絹シーツ・ピローや絹の布団カバーは、使用後のリネン対応が難しく、既存ホテルでの採用例はほぼない。本事業で試作したウォッシュャブル加工については、家庭での洗濯機対応レベルはクリアできた。しかし、ホテルの通常の機械リネン工程に耐え得るとまではいけない。今後は、京都市内の絹織物の洗い技術やネットワークを生かして、リネン対応の可能性を追求する。</p>

今後の展望	<p>持続可能な社会へ向けた様々な取り組みが求められる中で、自然由来の資源を無駄なく使う開発目標（SDGs）につながる素材として、絹には今後さらなる期待が高まると予想する。</p> <p>実際、本事業期間において、染色技術や、伝統工芸に加え、素材となる絹そのものに触れ、包まれることにより京都の魅力を引き出せると実感した。グローバルな京都の「観光」というコンテンツを活かすことは、絹や伝統産業の価値を広く発信できるビジネスモデルであり、伝統産業の新たな活路を見出し、京都産業へ寄与することに繋がると確信する。</p> <p>引き続き、ホテル側と調整を続け、今後は系列ホテルグループへの導入を進め、伝統産業と観光資源のタイアップによる成功事例を作り、事業化する。</p>
-------	--